

特別公開



本草学と薬用植物

帝京大学総合博物館 ミニ企画展

江戸の植物学を楽しむ

参考画像：岩崎灌園 『本草図譜』
画像：国立国会図書館デジタルコレクションより

会期

2019年 1月28日(月)～9月28日(土)

会場

帝京大学総合博物館 企画展示室

(帝京大学八王子キャンパス ソラティオスクエア地下1階)

- ◎開催時間＝午前9時～午後5時 (最終入館午後4時30分)
- ◎臨時閉館日＝3月24日(日)・6月16日(日)・23日(日)・7月14日(日)・8月4日(日)・18日(日)・9月22日(日)
※臨時閉館日の閉館時間は午前10時～午後4時となります。

- ◎入館無料
- ◎閉館日＝日曜日・祝日及び以下の日は休館いたします。
1月31日(木)・2月1日(金)・2日(土)・23日(土)・25日(月)・3月7日(木)・8日(金)・4月4日(木)・6月29日(土)・7月15日(月)・8月12日(月)・9月16日(月)

◎お問い合わせ
TEL:042-678-3675 FAX:042-690-8231
ホームページ <http://www.teikyo-u.ac.jp/introduction/tum/>

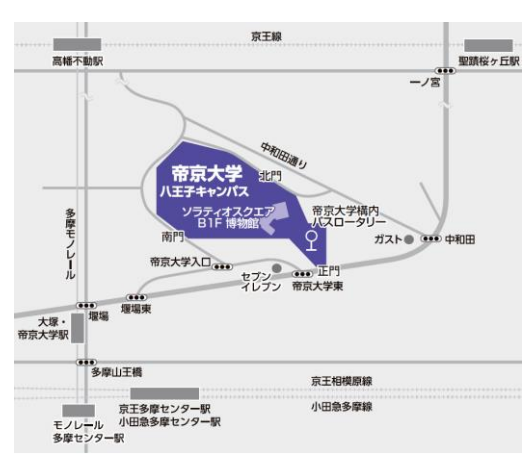


いわさきかんえん ほんそうずふ
 岩崎灌園 『本草図譜』(復刻)1980年
 「日本で初めての植物図鑑」ともいわれる『本草図譜』
 (1828年)の復刻版。
 所蔵：帝京大学メディアライブラリーセンター

本草学(ほんそうがく)
 古代の中国に起源を持つ学問です。主に薬として利用するために植物を中心に動物や鉱物を研究しました。当時の医療は自然由来の「生薬」を使った治療が中心でした。生薬の成分の多くは植物由来のものが多かったことから「薬の本(もと)となる草」というところから「本草(ほんそう)と呼ばれる草」ということになりました。日本では、古代より中国の本草学の影響を受けて研究が続けられてきました。江戸時代に入ると日本での詳しい調査に基づいた独自の本草学が開花しました。そして本草学の書物が数多く作られました。幕末に入ると近代ヨーロッパで発達した医療や植物学の考え方が主流になり、本草学は衰えていきますが近代日本の植物学の基礎となりました。

江戸の本草学

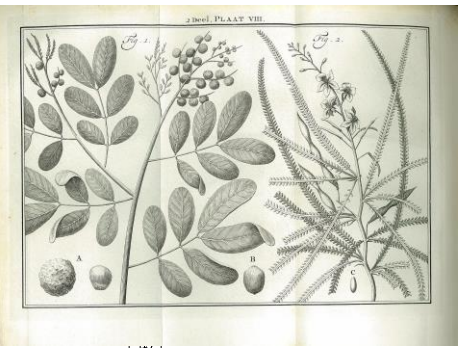
本ミニ企画展では、帝京大学メディアライブラリーセンターが所蔵する本草学の貴重書や複製本を公開します。合わせて、貴重書に描かれている植物図譜をより理解するために帝京大学薬学部が所蔵している生薬標本や薬用植物園で栽培している薬用植物についても展示いたします。帝京大学の貴重なコレクションをお楽しみ下さい。



*公共交通機関をご利用ください。
 高幡不動駅・聖蹟桜ヶ丘駅・多摩センター駅から「帝京大学構内」行きのバスが便利です。
 *車いすでご来館予定の方は事前にご連絡ください。

帝京大学総合博物館 TUM
 Teikyo University Museum
 〒192-0395 東京都八王子市大塚359
 帝京大学八王子キャンパス ソラティオスクエア地下1階
 TEL:042-678-3675
 FAX:042-690-8231
 ホームページ
<http://www.teikyo-u.ac.jp/introduction/tum/>

精緻な情報を 楽しむ



ハウトイン 『自然誌』 1761年~1785年
 リンネの『自然の体系』に基づいてつくられた全37冊の自然誌。江戸時代の多くの本草学者や蘭学者が利用した。
 所蔵：帝京大学メディアライブラリーセンター

いぬまよきさい しんていそうもくずせつ
 飯沼慾齋 『新訂草木図説』 1874年~1876年
 日本で初めてリンネの分類式を用いて創られた『草木図説』(1856年)の新訂版
 所蔵：帝京大学メディアライブラリーセンター



実物と比べて楽しむ

シャクヤク
 帝京大学薬用植物園(神奈川県相模原市)には500種類以上の薬用植物が栽培されている。



帝京大学薬学部所蔵生薬標本
 1977年の帝京大学薬学部創設当時から継続して集め続けられた生薬の標本。現在約1,500点が保管されている。

植物図譜と実物でみる薬用植物